

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	02-01-03-22
事務事業名	ボランティア育成事業		
事業開始年度			
根拠法令・要綱等	備前市手話奉仕員養成事業実施要綱 備前市要約筆記奉仕員養成実施要綱		
大項目 基本目標	健康でやさしさあふれるまちづくり	問合せ先	担当課(室) 社会福祉課
中項目 基本施策	やさしさあふれるまちづくり	職・氏名	障害者福祉係長 山本光男
小項目 施策	障害者(児)福祉	電話	64-1824

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	市内在住在勤で15歳以上の方
目的(何のために)	聴覚障害者の福祉の増進に資する。
行政活動(どのような方法で)	聴覚障害者の福祉に理解と熱意のあるものに対し、手話習得の困難な中途失聴者及び難聴者のコミュニケーション手段としての手話技術や要約筆記の指導を行うための講習会を開催する。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	手話奉仕員及び要約筆記奉仕員の登録者数を増やしていく。

事業の実績						
活動実績	実施項目		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	手話奉仕員養成研修受講者数	人		18	18	14
	要約筆記奉仕員養成講習受講者数	人		3	11	5
事業費	直接事業費	千円		483	450	450
	人件費			1,435	475	65
	事業費計			1,918	925	515
	国県支出金			362	337	337
財源	受益者負担	千円				
	市債					
	一般財源			1,556	588	178
必要人員		人		0.15	0.05	0.01
結果指標名						
結果指標	手話奉仕員養成研修受講者数	説明	手話奉仕員養成研修を受講した人数			
	結果指標量	人		18	18	14
	対前年比%		-	100.0%	100.0%	77.8%
	活動コスト	円	967,500	468,000	262,500	262,500
	単位当たりコスト	円	53,750	26,000	18,750	18,750
結果指標	要約筆記奉仕員養成講習受講者数	説明	要約筆記奉仕員養成講習を受講した人数			
	結果指標量	人		3	11	5
	対前年比%		-	366.7%	366.7%	45.5%
	活動コスト	円	950,500	457,000	252,500	252,500
	単位当たりコスト	円	316,833	41,545	50,500	50,500

事業の成果			
成果指標名	手話奉仕員登録率	式又は説明	登録者 / 受講者
	17年度	18年度	19年度
成果指標量	17%	11%	0%
対前年比		64.71%	0.00%
到達目標値	20%	到達目標年度	毎年

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
妥当性の評価	目的	<input checked="" type="checkbox"/> 関法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令) <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している	妥当性評価 <A-E> B
	対象	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	課題認識
	行政活動	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない	障害者のコミュニケーション手段の確保として必要な事業である。
	事業の意図する成果	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	
市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
	市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である	効率性評価 <A-E> C
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい <input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難 <input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある	課題認識
	手段	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	養成講座のカリキュラムなどを検討し、講座を最後まで受講してもらえようとする。
	職場	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	
有効性の評価	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価 <A-E> C
	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識
	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	養成講座を修了者した方に奉仕員として登録していただけるようにする。

平成20年度の状況		説明
<input type="checkbox"/> 重点化している <input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input checked="" type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了	
目標値	結果指標量 18	結果指標量 7
	結果指標量 20	

総合評価		評価区分 <A-E>	
14人の受講者のうち5人が養成講座を修了したが、奉仕員登録者はなかった。手話通訳者が1人でも多く育成できるよう、まず啓発に力をいれていく必要がある。		C	

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	講座の受講者を増やすとともに、受講率を上げ修了者を増やす。	21年度	修了者を増やすことが、奉仕員登録者を増やすことに結びつく。